

第2回 旧二葉中学校校舎利活用基本構想・基本計画策定検討委員会
(仮称) 芸術創造ファクトリー 個別委員会

pro

Proceedings 議事録



日時 : 平成27年8月31日(月) 15:30～17:30
場所 : 新潟市役所白山浦庁舎 白2-402会議室

出席者 委員 : 丹治 嘉彦 (新潟大学教育学部芸術環境講座 教授)
逸見 寛 ((株) けんと放送 取締役 放送局長)
長井 亮一 (新潟市文化スポーツ部 部長)
池主 透子 (TC-Wave 代表)
菊野 麻子 (フリーアナウンサー)
太下 義之 (三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)
芸術・文化政策センター/主席研究員・センター長)

出席者 事務局 : 中野 力 (文化スポーツ部文化政策課 課長)
鈴木 稔直 (文化スポーツ部文化政策課 課長補佐)
黒川 正憲 (文化スポーツ部文化政策課 主査)
枝並 素子 (教育委員会地域教育推進課 課長補佐)

出席者 策定支援 : 町田 誠 (本間総合建築 取締役)

全体進行 : 丹治 嘉彦 (新潟大学教育学部芸術環境講座 教授)

傍聴者 : 1名

◆ 議事内容

1. 文化政策課長挨拶

: 中野 力 (文化スポーツ部文化政策課 課長)

- ・前回の委員会では、青少年センターと目合わせを行った。今回は、創造ファクトリーとして、どのような姿であるべきか、提案を頂きたい。

また、アドバイザーの太下さまからも貴重なご意見を頂けると思う。

2. 検討委員会アドバイザー挨拶

《資料》旧二葉中学校校舎利活用基本構想・基本計画策定検討委員会アドバイザープロフィール

： 太下 義之 （三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)
芸術・文化政策センター/主席研究員・センター長）

・新潟市東アジア文化都市の委員に就任。

3. 議事

(1) 第1回検討委員会の意見整理

《資料》旧二葉中学校校舎利活用基本構想・基本計画策定検討委員会（第1回）委員意見集約

： 丹治 嘉彦 （新潟大学教育学部芸術環境講座 教授）

・資料にそって内容を説明

《資料》芸術創造ファクトリーの整備についての想定利用者からの意見 別紙

： 鈴木 稔直 （文化スポーツ部文化政策課 課長補佐）

・前回の委員会にて、実際に使用するアーティストに意見を聞いたほうが良いとのご意見を頂き、2つのギャラリーにヒアリングを行った。

・アートサロン環と植物染め「浜五」工房のヒアリング内容を説明。

アートサロン環：ファクトリー機能としては情報発信の場としての活用はどうか。

浜五： ギャラリーは作家の取り合いになっている。

翻訳や、輸送費助成、海外との仲介やキュレーターがいるとありがたい。

(2) 意見交換 1

《資料》旧二葉中学校校舎利活用基本構想・基本計画策定検討委員会（第1回）資料

： 丹治 嘉彦 （新潟大学教育学部芸術環境講座 教授）

- ・りゅーとびあや音楽文化会館等、新潟では舞台芸術系統は充実しているので、ここでは別の分野を充実すべき。また公民館との差別が必要。
市民だけの施設や専門家のみ利用も良くないので悩ましい。また、地域の方々の利用も念頭に置かなければならない。
運営面で言えば、アーツ千代田は、芸大の先生がリーダーをつとめ、16名くらいのスタッフで事業をしている。行政から10名以上もスタッフをそろえるのは難しいだろう。（長井委員）
- 舞台芸術面では、新潟は充実していると思われる。今回の施設に、どの様にオリジナリティを持たせるかが課題。運営面ではアーツ千代田は苦労話を聞くが、全国としても有数の成功事例。しかし、そのまま、持ってこれない面もある。
（丹治委員）

・運営においてディレクターを置くのか、行政が主体なのかを何時決めるのか。

また、アーティストは作品を売ることができるのか。（池主委員）

→ これからの検討課題である。（文化スポーツ部文化政策課 中野課長）

・アートという幅が広い。絵画や彫刻など表現に係るアート以外にも、人の生活の中の手仕事などの機能的なアートもある。（丹治委員）

・やり方を間違えると公民館になってしまう。青少年センターと創造ファクトリーを融合させることで、オリジナティーが出せる。施設を分けるがどうかでディレクター設置についても変わってくると思う。個人的には、機能を完全に分離して、それぞれにディレクターを置くのではなく、青少年も芸術もみることができディレクターを置き、その下に各分野に強い人を置くのが良いと思う。（逸見委員）

→ 1人のディレクターで両施設を見ることができるはずもないので補佐役の人は必要。（丹治委員）

・こども創造センターは、どのように運営しているのか。（丹治委員）

→ 今後、資料を用意する。（文化スポーツ部文化政策課 鈴木課長補佐）

・施設管理者ではなくディレクターを置くのであれば、早いうちに委員会に入れるべき。（菊野委員）

→ 名前だけの方をディレクターに置いて、スタッフが苦勞するのはさげたい。（丹治委員）

・ディレクターになる人の事業展開の意見を聴いて討論していかなければならないが、行政であるので、誰をディレクターにするかを、この段階では決められない。施設のあり方も含めて、いろいろな提案を入れつつディレクターを選べれるとよい。青少年センターは直営を考えているのではないか。（長井委員）

→ こども創造センターについては、にいがたみらい共同事業体による指定管理。指定制度の導入もあり得る。（文化スポーツ部文化政策課 中野課長）

・ディレクターをどうするかが、大きな問題であり、どの様な人にディレクターを頼むかを同時進行で決める必要があるのでは。（丹治委員）

・本日の午前中に千代田アーツ3331で打合せを行ってきた。

3331の運営は指定管理ではなく、NPOが千代田区に賃料を払っている、珍しい施設。ギャラリーは民間より安くすると、問題がおきるだろう。

3331では、作家の交換の国際ネットワークであるので、レジデンス機能を維持できている。ここではそこまで行るか。

教室・スタジオは場があれば良いということではない、東京には芸術家と子どもたちというNPOがあり特別なノウハウを持っている。

ライブラリーは、そこに行く新しい出会いが得られるという、例えばオリジナルな本棚の並べ方である等の仕掛けが必要である。

デザイナーズビレッジは単に貸しオフィスではダメで、行政がある程度サポート（お金ではなく）起業支援が必要。

資料では、創造ファクトリーとして十分な機能提案内容となっているが、運営していくのは大変な努力が必要である。まずは、ディレクターを先に決めるべき。

新潟であれば、水と土の芸術祭という資産があるので、アーカイブセンターがあると良いと思う。（太下アドバイザー）

大畑少年センターの利用状況の説明

《資料》平成26年度 月別利用状況

《資料》平成27年度 大畑少年センター主催事業

説明 : 枝並 素子 (教育委員会地域教育推進課 課長補佐)

- ・大畑少年センターでは、学校間のコミュニケーションの場として利用して頂くのが大切と考えている。
- ・宿泊が集中するのは6～8月が多い。夏休み以外は土日週末に限られ、月に3団体程度の利用がある。スポーツ少年団の日帰り利用が多い。平日の利用者は保育園、幼稚園の利用者が多い。
- ・利用者は減少傾向にある。
- ・主催事業の参加費とはなにか。(逸見委員)
→ 主に食品材料代。(教育委員会地域教育推進課 枝並課長補佐)
- ・基本的には大畑少年センター機能をここへ持ってくるのか。(池主委員)
→ その通り。高校生、大学生利用も考えている。
(教育委員会地域教育推進課 枝並課長補佐)

- ・芸術の定義づけが必要ではないか。受け入れるアーティストのグレードもある。前回の3331、浅草、金沢等の模倣施設ではなくて、伝統工芸も含み、新潟独自の施設であるべき（菊野委員）
 - ここで、ものづくりもできるし販売もできる工芸も芸術と考える。公民館で活動している工芸家の方もいれるのか。（長井委員）
 - 3331ではディレクターが全て仕掛けている訳ではない。テナント業的な部分もある、AKBのイベントにも利用。（太下アドバイザー）
 - 民間のディレクターが線を引くのは良いが行政では難しいだろう。（長井委員）

- ・新潟独自の文化を入れながら、芸術家を育てていくことは難しい。（丹治委員）
 - 芸術家も食べていけるように、収益性を得るまでアドバイスするのは行政の運営では難しいだろう。青少年機能でも創造ファクトリー機能もどちらも集客が大事。（池主委員）

- ・新潟の人口が減っていく中で集客を上げる自助努力が大切。（丹治委員）

- ・青少年センター機能では収益を得られないだろう。芸術創造ファクトリー部分も何で収益を得るのか。指定管理者は年間いくらで動かしてくださいという制度か。（逸見委員）
 - アイスアリーナ等は、行政からお金は出していないが、その通り。（長井委員）

- ・アーティストはお金がない人が多いので、ギャラリーを借りる人がいるのか。（逸見委員）
 - 企業とアーティストのマッチングの場としてならば可能性がある。（菊野委員）
 - デザインは企業秘密もあり、一緒はあり得ないが、建築家はある桜木町に作家のアトリエ兼オープンスペースある。建築家と作家のアトリエ。（丹治委員）

- ・会社でレンタルオフィス事業をやっているが、マッチングはなかなかうまくいかない。（逸見委員）

- ・青少年センター機能と創造ファクトリーの複合化のイメージが難しい。（池主委員）

- ・新潟独自の施設をつくるのが難しい。近隣施設では、どの程度の利用があるのか。（菊野委員）
 - 参考までに水と土の芸術祭では、初日1500人、土日は1000人、平日は200人、芸術祭でこの程度。来場者数にとらわれてもいけないが少なくとも難しい。（丹治委員）
 - 近隣の美術館も同じ程度の稼働率、企画展でも1日2000人程度。（長井委員）
- ・利用対象者（来館者）も、視野を広げると、Noismのように海外の人たちに認知度の高い団体もある。海外の方が新潟文化を評価して頂けるのではないか。（菊野委員）

・オリジナルという立地（海）である。海と一体化した施設が良いのではないか。
オリジナルのウィンドサーフィンのボードを作る企画など。（逸見委員）

・旧二葉中学校は新潟で一番海に近い中学校である。
自然との一体化は良い考えだと思う。（丹治委員）

→ 行政が行うというのは、間口を広げるということだろう。
サーフィンでもアートになるのではないか。（池主委員）

・ディレクターのポジションとスタッフも早急に検討が必要である。
その上で、新潟のオリジナリティや芸術の意味の討論を行うのが良い。
提案では校舎の中に多機能が盛り込まれており、その機能毎に専門家が必要である。
社長に部長が必要なイメージ。この中で何をメインにするかを考えるべき。
例えばギャラリーをメインとした場合、市内のギャラリーとの差別化が必要。
市内でギャラリーを既に運営されている方を公募で探し、そのギャラリーをどのようにサポートするか等、中核にする機能を決めて検討していくのはどうか。
先ほど横浜のシェアオフィスの話が出たが横浜で可能なのは東京近郊だからである。
シェアオフィスも検討するのであれば、新潟市の産業部門と組む必要がある。
（太下アドバイザー）

・新潟のオリジナリティを出していきたい。
仮にギャラリーをメインとしてはどうかという意見もでたが、青少年センターとの
コラボレーションも外せない。（丹治委員）

・教室、スタジオがメインだと思う。木金属工房で日本の伝統文化について学ぶのも
良い。（長井委員）

・お茶のできる和室が必要。本格的な水屋でなくても良い。（池主委員）

・アーティストとの接点として、水と土の芸術のベースキャンプを中心としてはどうか。
（菊野委員）

・教室、スタジオ等、アーティストと触れ合える場を中心が良いのではないか。
ギャラリーは、アーティストがいなければ触れ合うことができない。
他の施設との差別化を考えるべきで、ここではアーティストとのコラボレーションが
メインだと思います。
ギャラリーを設置する場合には収益性をあてにしなければならないし、レジデンスは
テント張っても、市内のホテルに泊まり、制作はここに通ってもよいのではないか。
（太下アドバイザー）

4. 連絡

(1) 第3回委員会の日程について： 日程調整表を今週中に文化政策課に提出

日時 : 9月28日 から 10月2日 間で決定予定

場所 : 未定

以上